



## つむぎだより No.19

＝ラジオ体操開始！＝

11月になり、秋も深まってきました。皆様はいかがお過ごしでしょうか？そろそろ年末調整の準備も進めています。繁忙期に入る直前ですから、体調管理もしないといけないと思い、9月22日より、スタッフ全員で、ラジオ体操を始めました。

最初は、体はカチカチ、ボキボキとなる、硬すぎて腕があまり動かない、というスタッフが大半の状況でしたが、少しずつ動きが滑らかに。日々体調がよくなっているという実感はまだ湧きませんが、このまま続けていく予定です。

そして、代表K氏のダイエットですが、残念ながらあまり進んでおりません。10月から、毎日ではないものの、朝オフィスに来てから、大阪城へ散歩に行くようになりました。気持ちが良いのと気分転換を兼ねて実践中です！

続けてもらえることを祈りつつ、あたたかく見守っていきたいと思っています。

(川東)

### 1、コミュニケーションと職場環境が「やりがい」に影響

#### ◆新入社員の「やりがい」意識は低下

マイナビが9月30日に発表した、2018年～2021年度入社ビジネスパーソンを対象にした「新入社員のエンゲージメントと職場環境に関する調査」の結果によると、新入社員が仕事の「やりがい」を「感じている」と答えたのは2020年度入社では70.8%でした。

この割合は、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年度入社(76.4%)より5.6ポイントの減少で、企業側の新入社員の受け入れ態勢が十分に整っていなかったことが、仕事へのやりがいに影響した、と考えられるとしています。

#### ◆コミュニケーションや職場環境が影響

コミュニケーションの多さと、仕事のやりがいとの関係においては、「やりがいを感じる」人ほど、上司や先輩社員とのコミュニケーションが「あった(71.4%)」と回答。「やりがいを感じない」人の最も多い回答は「コミュニケーションがなかった(77.2%)」という結果でした。

会社・部署への好感度も、コミュニケーションが多いほど高く、少ないほど下がるということがわかりました。

また、「業務を行ううえで、職場のツールや備品などの業務環境が整っているか」の問いに対しては、「やりがいを感じる」と回答

した社員では「業務環境が整っている」が80.7%と高かったのに対し、「やりがいを感じない」と回答した社員の場合は31.5%と低くなりました。この結果から、業務環境もやりがいに影響していることがわかります。

テレワークの浸透や働き方の多様化が進む中、コミュニケーションの多寡や職場環境の整備は、新入社員定着への重要な課題だと言えるでしょう。

【マイナビBiz「新入社員のエンゲージメントと職場環境に関する調査」】

[https://www.mynavi.jp/news/2021/09/post\\_32002.html](https://www.mynavi.jp/news/2021/09/post_32002.html)



## ＝季節のコラム＝

肌寒くなると、炬燵(コタツ)が恋しくなります。『炬燵開きの日』というのをご存知でしょうか。

コタツの始まりは室町時代ころ。囲炉裏の上に檜(やぐら)を組み、それに着物をかけた物だとか。江戸時代中期には囲炉裏の代わりに火鉢を用い、移動可能な置き炬燵が広まったそうです。そして、亥の子の日(亥の月亥の日)を『炬燵開きの日』としました。というのも「亥」が陰陽五行説で、“水”にあたるため、火を逃れるとされたからです。

ところで、住宅向けの掘り炬燵は、イギリス人陶芸家バーナード・リーチが、正座が苦手であることから1909年(明治42年)に自宅に作ったものが、日本初のものだそうです。

(鹿島)



### 社会保険労務士法人つむぎ

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目1番22号

フェアステージ大手前ビル7階

電話: 06-4397-3358

FAX: 06-4397-3359

Email: info@sr-tsumugi.or.jp

営業時間

平日 9:00~18:00

HP: <https://sr-tsumugi.or.jp/>

## 2、傷病手当金の支給期間が改正されます

### ◆傷病手当金とは

傷病手当金は、健康保険の被保険者が、病気やケガの療養のため、連続する3日間を含み4日以上仕事に就くことができず、給与支払いがない場合に、4日目以降の仕事に就けなかった日に対して支給されるものです。現在の支給期間は、支給を開始した日から最長1年6カ月ですが、この期間には、復職した後、再び同じ原因により仕事に就けなくなった場合の、復職していた期間も含まれます。

### ◆改正により支給期間を通算化

令和4年1月1日から、この支給期間が療養中に復職し再び同じ病気やケガにより仕事に就けなくなった場合、復職期間を除いて支給期間がカウントされることとなりました(具体的な支給期間の計算方法は、令和3年11月中旬に明らかになる見通しです)。

これは、現在がん治療など入退院を繰り返して療養する患者が、柔軟に傷病手

当金制度を利用できない例が増えていることや、共済組合では既に支給期間が通算化されていることもあり、取扱いを合わせる方向で、見直しが行われたものです。

### ◆仕事と治療の両立支援

行政としては、仕事と治療との両立を促すため、新たな休暇制度や、健康づくりを目的とした制度等の導入を促す動きとなっています。今後、労働力人口が減っていく中で、会社としても貴重な人材を病気で失わないようにする工夫が必要となります。

ご参考:「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」PDF

<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/000780068.pdf>



## 3、今月のおすすめ本

今月は、「破天荒フェニックス オンデーズ再生物語」(著者:田中修治 出版:幻冬舎)をご紹介します。小説ではありませんが、実は実話(ダジャレのようですが)です!!

茶髪の田中さん(著者)が、メガネチェーン店を買収して社長となり、売上高20億円、借金14億円で、毎月赤字が2,000万円という状況から、ピンチとチャンスを繰り返しつつ、仲間と共に、何とかして会社を立て直していくストーリーです。

とてもスリリングな展開。綱渡り状態が続く経営状況が、なかなか読みが応えあり、私は一気に読破してしまいました。

ドラマ化もされていますが、一読の価値がある本です。

社長の器が問われる1冊ですよ。

(川東)

